

## 北東アジアの10年：北朝鮮の核問題

池上雅子（東京工業大学 環境・社会理工学院）

### Introduction

- 2017年、北朝鮮めぐる軍事的緊張の激化・朝鮮戦争以来の危機
  - 北朝鮮による多数の弾道ミサイル試射、6度目の核実験
  - 米朝間の外交的応酬が激昂
  - 米韓軍事演習（米3空母打撃群の臨戦態勢）、韓国へのTHAAD配備
  - 北朝鮮木造船の日本への漂着急増（北朝鮮特殊部隊による対日テロ攻撃の危険？）
- 東アジアにおけるミサイルをはじめとする軍事力増強は武力紛争勃発時の破壊力の増大
- 軍事的緊張緩和が喫緊の課題
  - 国内では共同通信論考「朝鮮戦争終結を」は無視
  - 国外では *Bulletin of the Atomic Scientists*, “Prevent nuclear catastrophe: Finally end the Korean War” に好反応

北朝鮮核問題は核抑止の本質と核不拡散体制のダブルスタンダードに起因

- 核兵器の本質は「Diplomacy of Violence」(Thomas Schelling, *Arms and Influence* 1966)
- 北朝鮮は中国の核武装路線を踏襲（米国は核実験成功後の中国を大国・友好国として厚遇）

北朝鮮非核化の米朝交渉失敗の歴史

- 1994年枠組み合意は、北朝鮮の非核化に失敗したばかりか、当時大量餓死などで体制崩壊の危機に瀕していた北朝鮮体制が皮肉にも米国の経済的見返り支援で蘇生
- 2008年の米朝交渉も失敗
- 経済的見返りを非核化交渉のカードに使うのは核抑止・安全保障問題から逸脱

北朝鮮核問題を米朝二国間の対立や南北統一問題に矮小化するのは誤り

- 朝鮮戦争は、南北各朝鮮の背後で介入する中国/ソ連 vs. 米国の帝国主義的冷戦の代理戦争
- 北東アジア全体の地域安全保障問題としての対処が必要
  - 米朝だけでなく、休戦協定当事国である中国の建設的関与が必須；米朝協議の限界
- 北東アジア全体の軍事的緊張緩和と脅威低減が北朝鮮非核化を促す為の必須条件
  - 先ずは、朝鮮戦争(the Korean Cold War)の終結を
  - ミサイル・核実験と米韓合同軍事演習の相互モラトリアムは建設的
  - 在韓米軍撤退は時期尚早、日本は、朝鮮有事の軍事的規模を拡大させる在日米軍内の朝鮮国連軍の縮小・撤退を対北朝鮮外交交渉の切り札にできるのでは？

北朝鮮核問題は国際的な闇シンジケートの実体化、「結晶」

- A. Q. Khan Network 以来の大量破壊兵器の闇シンジケート
- Banco Delta Asia 問題に見る国際金融の闇、麻薬・石油製品・鉱物資源などの闇貿易
- 対北朝鮮経済制裁は懲罰としてでなく、大量破壊兵器拡散問題への対応として継続・強化
  - 経済制裁解除を非核化交渉の取引材料にするのは誤り

非核化成功例としての南アフリカの事例を参照

- 南アフリカのアパルトヘイト体制は、冷戦終結による脅威の除去で安全保障環境が好転したことが平和理の体制移行を可能にした決定的要因（経済制裁よりも効果的要因）
- 米国をも含む国際的経済制裁は、上記の政治的判断を促したと考えられる。